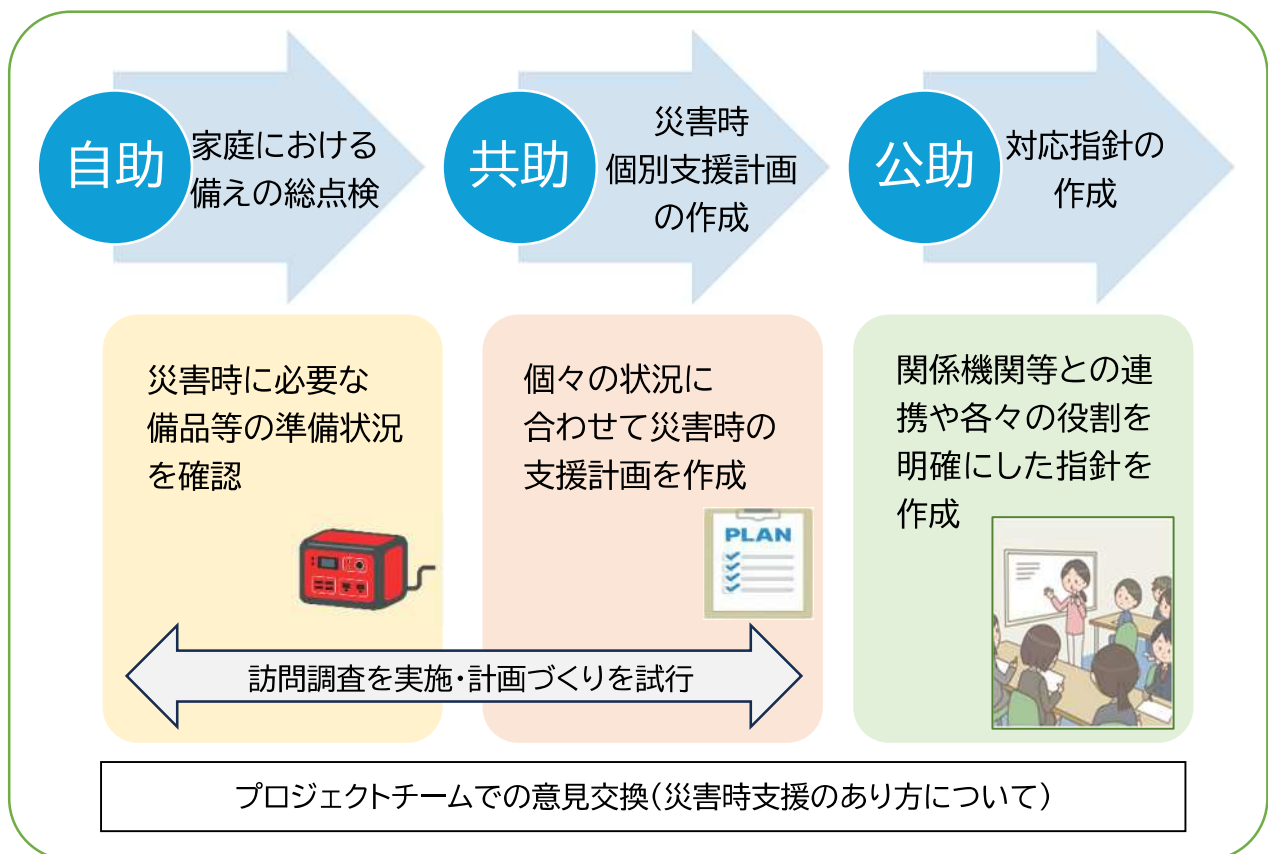


在宅人工呼吸器使用患者・災害時総合支援事業

在宅の人工呼吸器使用患者が、大規模災害発生時に安心して避難生活を送ることができるよう、当事者や支援者、関係者等で構成するプロジェクトチームを起ち上げ意見交換を実施するとともに、家庭における備えの総点検(自助)、災害時個別支援計画の作成(共助)、対応指針の作成(公助)を行う。



【令和7年度スケジュール】

- 令和7年 8月 プロジェクトチーム起ち上げ、第1回意見交換会の実施
- 令和7年 8月～ 家庭における備えの総点検、災害時個別支援計画の作成試行
(対象者を選び、訪問調査を実施)
- 令和8年 3月頃 プロジェクトチーム 令和7年度意見のまとめ

在宅人工呼吸器使用患者・災害時総合支援事業に係る プロジェクトチーム意見交換会について

1 目的

在宅で生活している人工呼吸器使用患者については、自力での避難が難しく、また、医療機器の使用の有無が生命に大きく関わってくることから、大規模災害時に安心して避難生活を送ることができるよう、「自助」「共助」「公助」の視点から重層的な支援体制を構築していく必要がある。

これを実現していくため、当事者、支援者、関係者等から構成するプロジェクトチームにおいて、災害時支援のあり方に関する意見交換を行うもの。

2 活動期間 令和7年8月～令和8年3月

3 活動内容 日頃からの備えを含めた災害時支援のあり方に関する意見交換

4 メンバー ① 当事者、家族 ②医療・福祉分野の支援者 ③学識経験者 ④ 地域関係者

5 令和7年度 意見交換会開催スケジュール 3回実施予定(1回90分程度)

時 期	内 容(予定)
第1回 R7年8月25日	① 在宅人工呼吸器使用患者の状況や本事業についての情報共有 ② 日頃からの備えを含めた災害時支援のあり方についての意見交換
第2回 R7年11月頃	① 備えの総点検実施や災害時個別支援計画作成に関する中間報告 (自宅訪問時に聴取した当事者・ご家族の意見も含めて報告) ② 自助に関するゲスト講演 ③ 日頃からの備えを含めた災害時支援のあり方についての意見交換
第3回 R8年2月頃	① 備えの総点検実施や災害時個別支援計画作成に関する最終報告 (自宅訪問時に聴取した当事者・ご家族の意見も含めて報告) ② 共助に関するゲスト講演 ③ 日頃からの備えを含めた災害時支援のあり方についての意見交換

※ 第3回終了後、意見内容をまとめた資料を作成し、構成員と共有する

北九州市内の 在宅人工呼吸器使用者の現状

～令和6年度 福岡県実態調査より～

北九州市保健福祉局健康危機管理課



©Kei Asaka/Studio Corazon

北九州市防災マスコット
キャラクター「チェックル」

参 考

(在宅人工呼吸器使用患者の人数に関する調査)

【概要】

令和6年6月1日時点で、県内訪問看護ステーションにおいて、訪問看護を行っている「在宅人工呼吸器使用患者」の人数を把握するための調査(福岡県が実施)

【調査期間】

令和6年6月

【対象】

県内の訪問看護ステーションが訪問看護を行っている県内在住の在宅人工呼吸器使用患者
(※ 気管挿管・気管切開下で人工呼吸器を装着している方または24時間継続して鼻マスク等の人工呼吸器を装着している方)

【方法】

県内の全訪問看護ステーションをへ調査協力依頼を送付し、訪問看護ステーションがWEBフォームから回答。

【在宅人工呼吸器使用患者に訪問中の市内訪問看護ステーションの数】

45事業所／220事業所(休止中含む)

【市内訪問看護ステーションが訪問中の在宅人工呼吸器使用患者数】

96名(R5年度調査90名)

分析データの概要

(災害に備えた在宅人工呼吸器使用患者実態調査)

【概要】

在宅人工呼吸器使用者に関する防災対策のため、福岡県が県内の在宅人工呼吸器使用患者の実態を把握するため行った調査データのうち、①北九州市内に居住し、②市への情報共有に同意の得られた人のデータを分析
(※ 調査実施主体 福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課)

【人数】

49人

【調査期間】

令和6年7月

【対象】

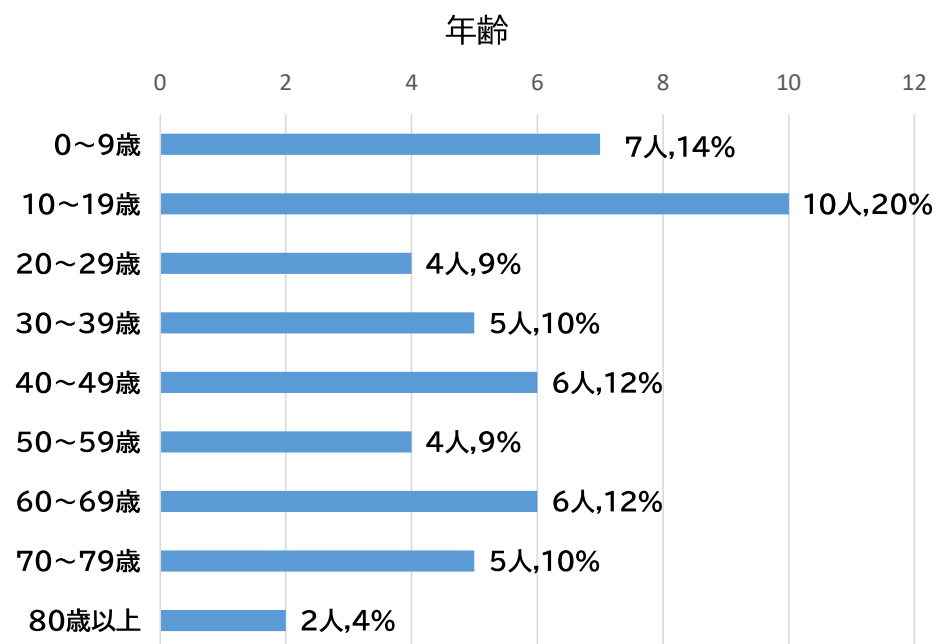
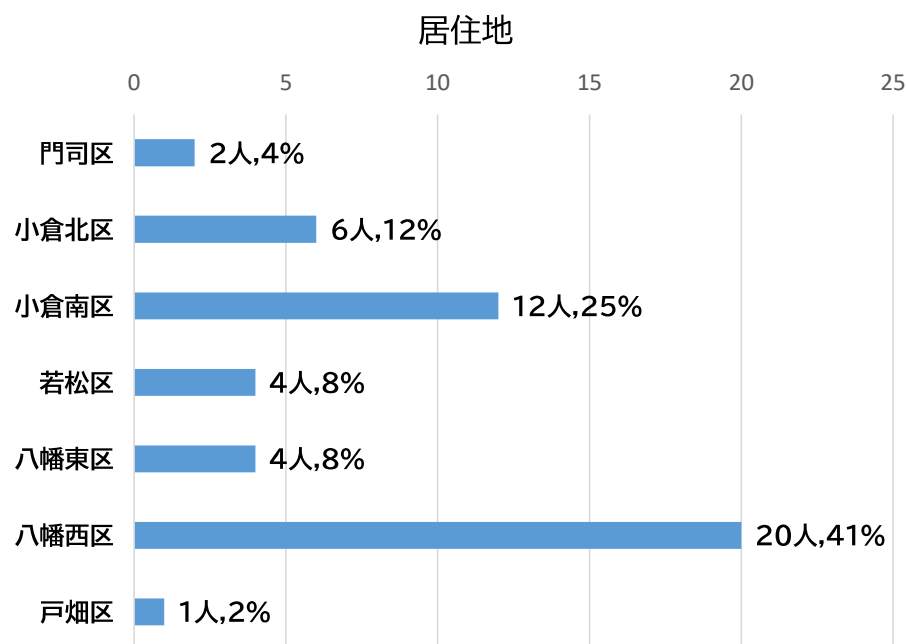
県内の訪問看護ステーションが訪問看護を行っている県内在住の在宅人工呼吸器使用患者
(※ 気管挿管・気管切開下で人工呼吸器を装着している方または24時間継続して鼻マスク等の人工呼吸器を装着している方)

【方法】

県内の全訪問看護ステーションを通じて在宅人工呼吸器使用患者へ調査協力依頼を送付。訪問看護ステーションの協力を得て、患者もしくは患者家族等がWEBフォーム(簡易申請システム)から回答。

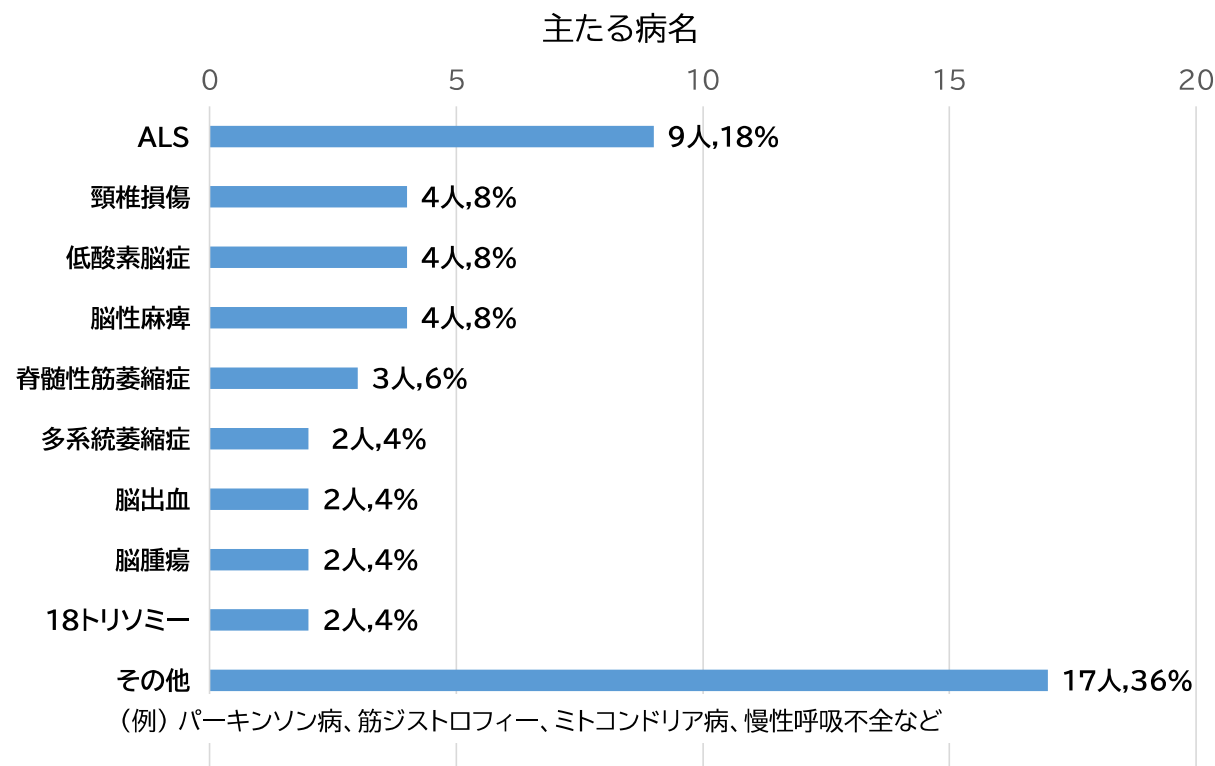
1 基礎情報

- ・居住地は、八幡西区が20人と最も多く、次いで小倉南区(12人)、小倉北区(6人)となっている
- ・年齢は、10～19歳が10人と最も多く、次いで0～9歳(7人)、40～49歳と60～69歳が同数(6人)である



2 主たる病名

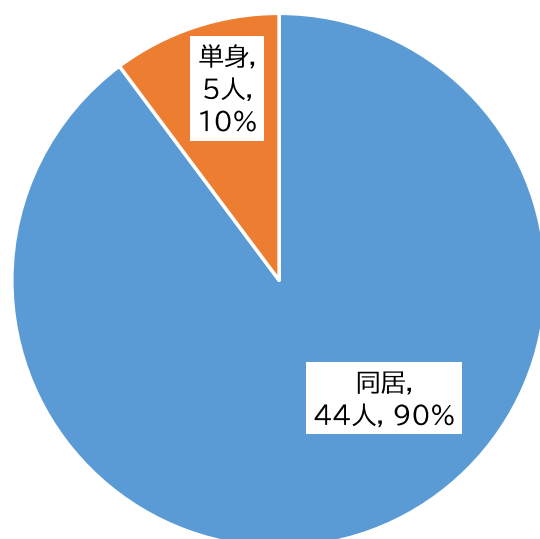
- ・ALSが9人と最も多く、次いで頸椎損傷、低酸素脳症、脳性麻痺(ともに4人)となっている



3 家族との同居

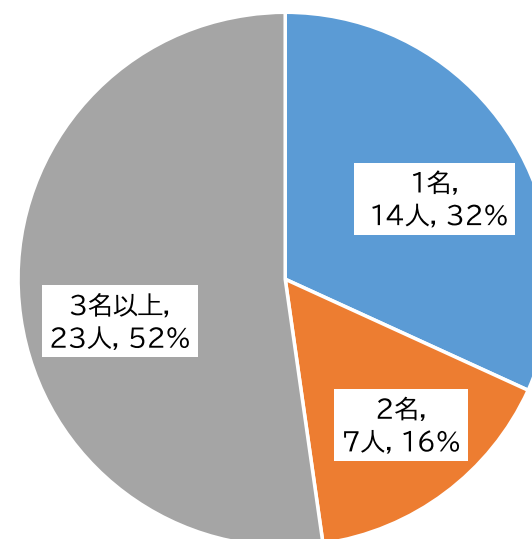
- ・人工呼吸器使用患者の90%は家族と同居しており、単身は10%である
- ・同居家族のある人のうち、3人以上の家族と同居している人は52%、1人が32%、2人が16%となっている

家族について



同居者数

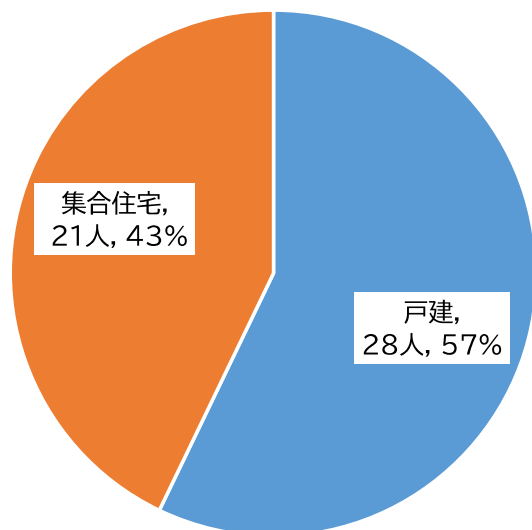
n=44



4 居住環境

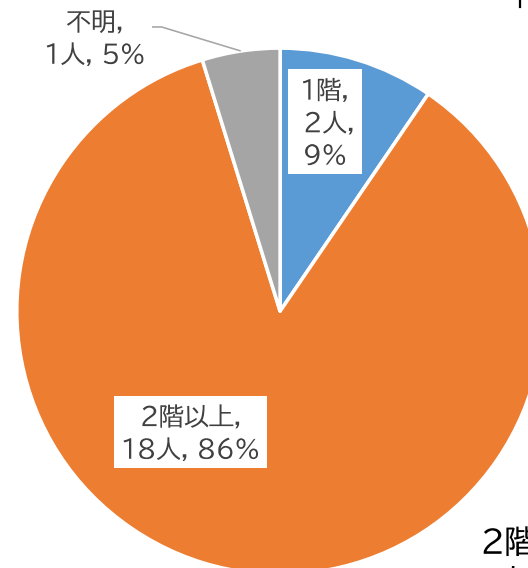
- ・居住環境として、戸建てが57%に対し、集合住宅が43%である
- ・集合住宅居住者の86%が2階以上に居住。2階以上の集合住宅の約90%が「エレベーターあり」となっている

居住環境



集合住宅の居住階数

n=21



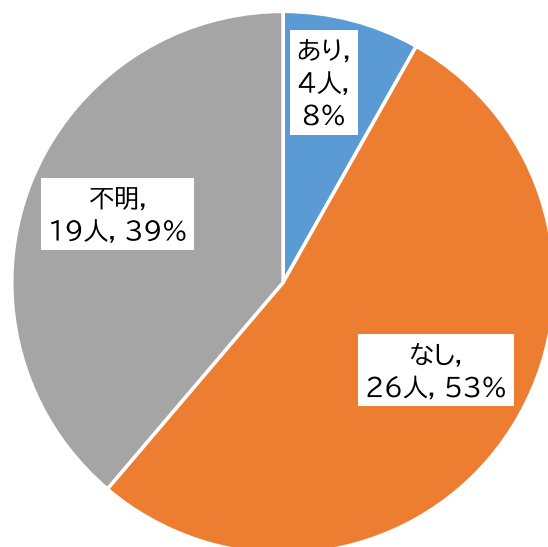
2階以上の約90%が
エレベーターあり

5 災害時への備え

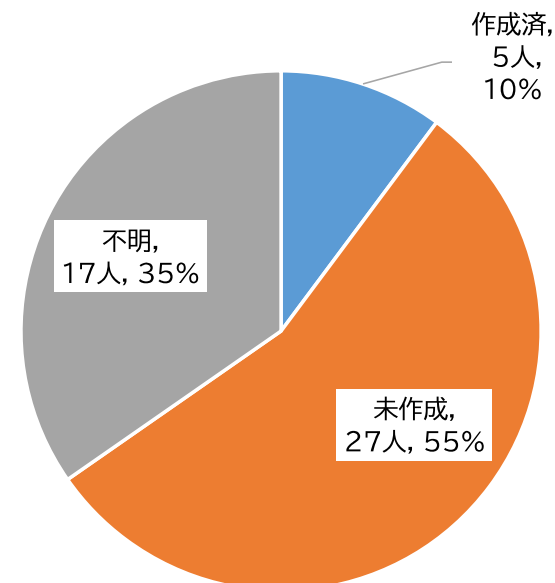
(1) 名簿登録、個別避難計画の作成

- ・避難行動要支援者名簿への登録については、「なし」が53%と最も高く、次いで不明が39%、「あり」は8%である
- ・個別避難計画は、未作成が55%と最も高く、次いで不明が35%、作成済みは10%となっている

避難行動要支援者名簿への登録



個別避難計画の作成

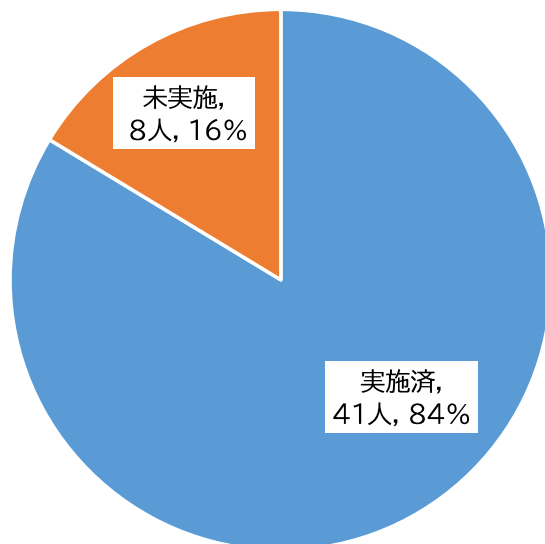


5 災害時への備え

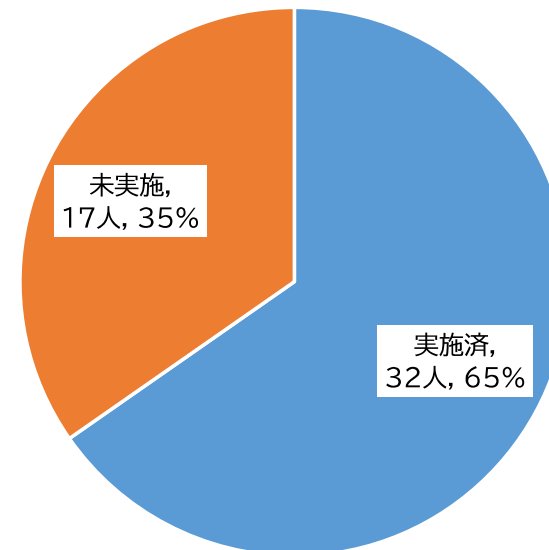
(2) 備蓄品、避難場所・経路の確認

- ・災害時備蓄品の準備については、84%が実施済と回答している
- ・避難場所・経路の確認については、65%が実施済と回答している

災害時備蓄品の準備



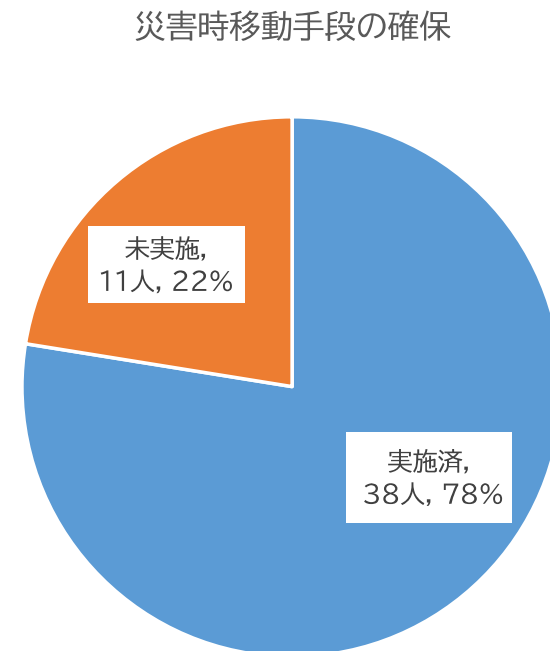
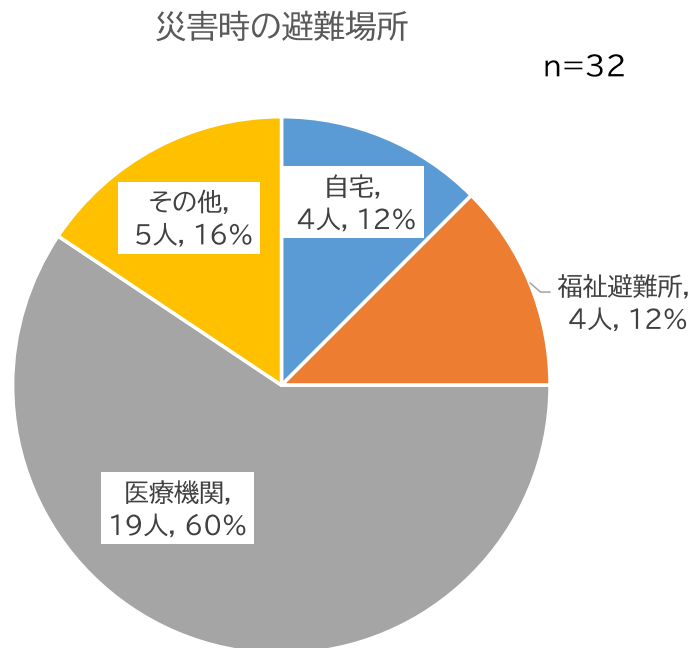
避難場所・経路の確認



5 災害時への備え

(3)避難場所、移動手段

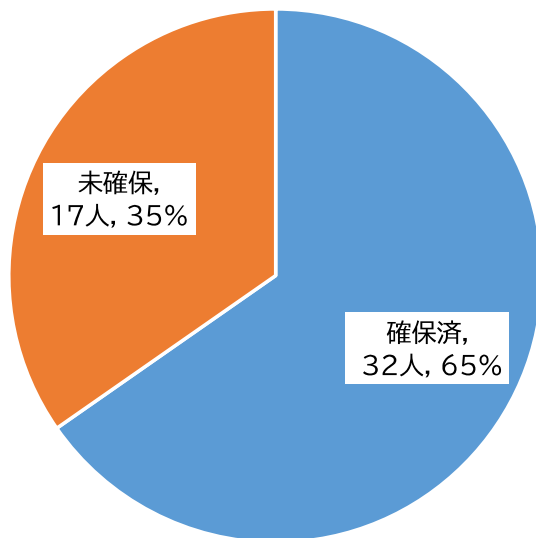
- ・災害時の避難場所は、医療機関が60%で最も高く、次いで自宅と福祉避難所が12%となっている
- ・災害時の移動手段の確保については、78%が実施済と回答している



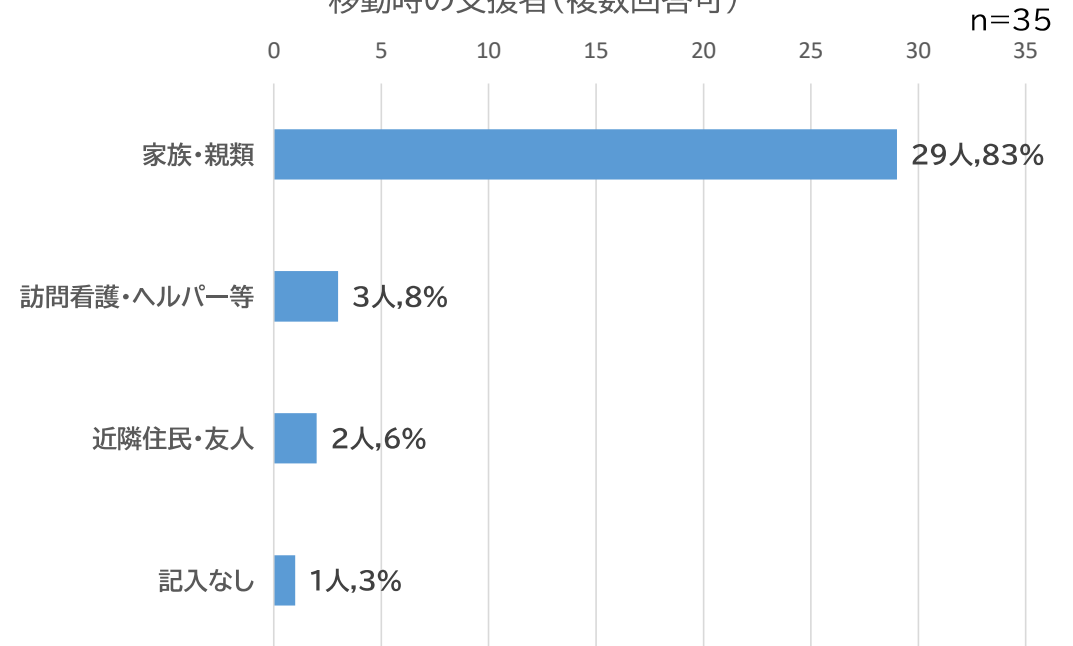
5 災害時への備え (4)移動時の支援者

- ・移動時の支援者の確保については、65%が確保済と回答している
- ・移動時の支援者については、家族・親類が83%と最も高く、次いで訪問看護・ヘルパー等が8%となっている

移動時の支援者の確保



移動時の支援者(複数回答可)

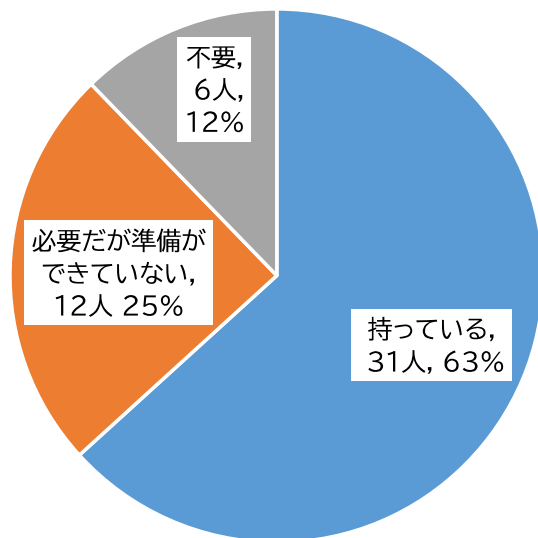


6 非常用電源について

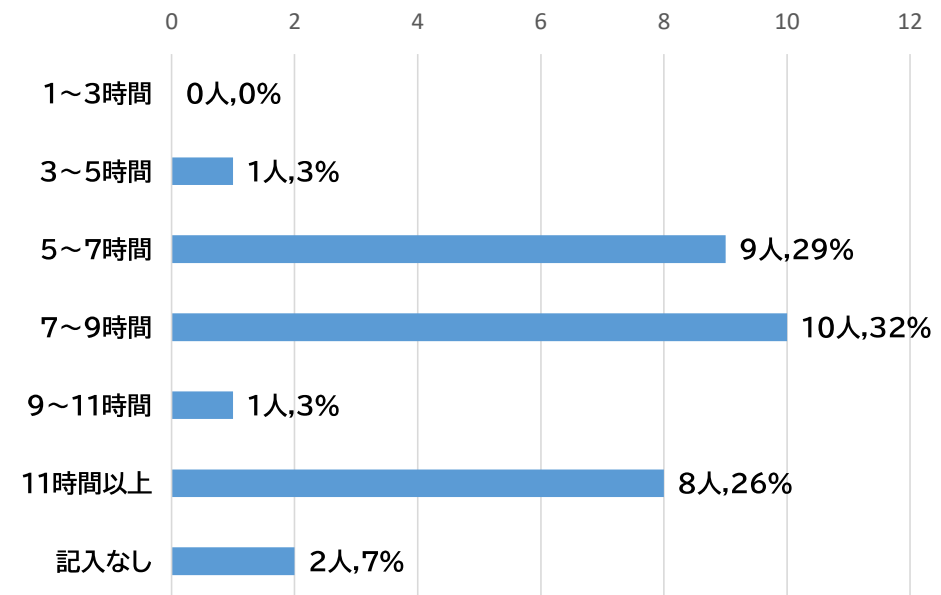
(1)人工呼吸器用外部バッテリーについて

- ・人工呼吸器用外部バッテリーについては、63%が「持っている」と回答している
- ・予備を含めた人工呼吸器用外部バッテリーの最大作動時間は、「7～9時間」が10人で最も多く、次いで「5～7時間」が9人、「11時間以上」が8人となっている

外部バッテリーについて



外部バッテリー最大作動時間 n=31
※ 予備外部バッテリーを含めた作動時間の合計

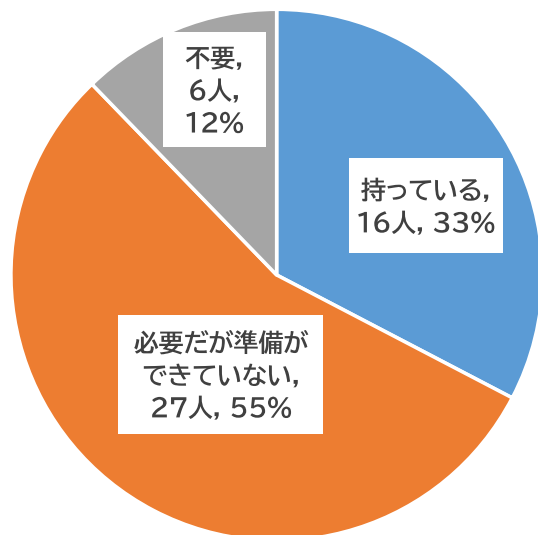


6 非常用電源について

(2)蓄電池、自家発電機の準備について

- ・蓄電池は、「持っている」が33%であり、「必要だが準備ができていない」が55%となっている
- ・自家発電装置は、「持っている」が6%であり、「必要だが準備ができていない」が59%となっている

蓄電池の準備



自家発電装置の準備

